

第11回 軽井沢スキーバス事故対策検討委員会

(第1回 フォローアップ会議)

説明資料③ (バス運転者の労働時間等の実態調査について)

平成29年2月13日

2. バス運転者の労働時間等の実態調査について

(1) 調査の概要

(2) 平成26年度調査結果

実態調査の実施概要

		平成26年度調査	平成28年度調査(案)
調査期間		○ 1ヶ月間(平成26年7月～8月)	○ 1ヶ月程度
調査方法	事業者	○ 乗合・貸切バス事業者 50事業者 <ul style="list-style-type: none"> ・乗合バス事業者25(大手13、中小12) ・貸切バス事業者25(大手12、中小13) ・対象事業者は地方運輸局ごとに選定 ○ 地方運輸局担当者による ヒアリング調査 <p>※ 「大手」とは、乗合バス・貸切バス合わせて保有車両数50両以上の事業者、「中小」とは、乗合バス・貸切バス合わせて保有車両数50両未満の事業者をいう。</p>	○ 乗合・貸切バス事業者 約3,000事業者 (予定) ○ アンケート調査 <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【参考】 乗合バス事業者 2,217事業者 貸切バス事業者 4,508事業者 (平成28年3月現在(国土交通省調べ))</p> </div>
	運転者	○ 250名 <ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリング実施事業者ごとに無作為に5名ずつ抽出 ○ アンケート調査 <ul style="list-style-type: none"> ・回答結果は事業者を通じて回収(回答内容を事業者に確認されないよう配慮) 	○ 約6,000名 (予定) <ul style="list-style-type: none"> ・所属事業者におけるアンケート実施の有無にかかわらず、労働組合を通じて実施 ○ アンケート調査 <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【参考】 乗合バス運転者 83,199名 貸切バス運転者 47,581名 (平成25年3月現在(国土交通省調べ))</p> </div>
主調査項目		<ul style="list-style-type: none"> ・ 休息期間の確保状況(睡眠の確保状況等)に関する調査 ・ 休憩時間の確保状況(休憩中の旅客対応等の有無等)に関する調査 ・ 休日出勤の状況に関する調査 ・ 昼夜混在勤務の状況に関する調査 ・ 事業モード(路線乗合、高速乗合、貸切等)別混在勤務の状況に関する調査 ・ 運転者の特性や状況(高齢者や初任者、持病を抱えている者、特に連続勤務にある者など)に応じた勤務体系の設定に関する調査 等 	

バス事業者は運転者の過労運転を防止するため、「自動車運転者の労働時間等の改善のための基準」(いわゆる「改善基準告示」)を遵守した運行計画を設定することが、法令上義務付けられている。

自動車運転者の労働時間等の改善のための基準 (平成元年労働省告示第7号) の主な内容

●拘束時間

○ 1日当たり13時間以内とすることとし、延長する場合でも16時間までとすること

※ 15時間を超える回数は1週間に2回まで

○ 4週間を平均した1週間当たり65時間以内とすること

※ 労使協定の締結により、52週間のうち16週間までは4週間を平均した1週間当たり71.5時間まで延長可

●休息期間

○ 勤務終了後、連続8時間以上とすること

※ 運転者の住所地での休息期間が、それ以外の場所の休息時間より長くなるよう努めること

●運転時間

○ 2日を平均して1日当たり9時間を超えないこと

※ 4週間を平均した1週間の運転時間は、40時間を超えないこと

●連続運転時間

○ 4時間を超えないこと

※ 4時間以内又は4時間経過直後に運転を中断し、30分以上(1回10分以上で分割可)の休憩等を確保すること

●休日労働

○ 2週間に1回まで

2. バス運転者の労働時間等の実態調査について

(1) 調査の概要

(2) 平成26年度調査結果

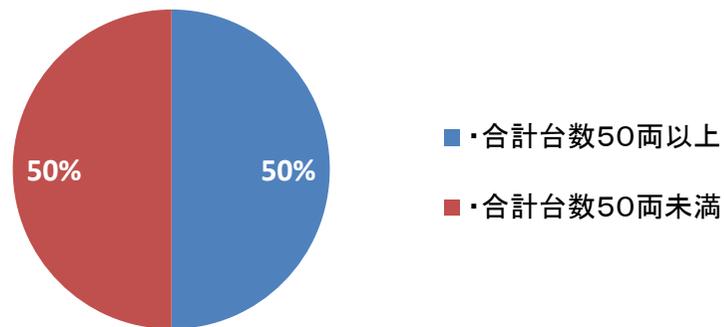
平成28年12月13日
公表資料

バス事業者における 改善基準告示等に係る運用実態調査 (平成26年8月)結果

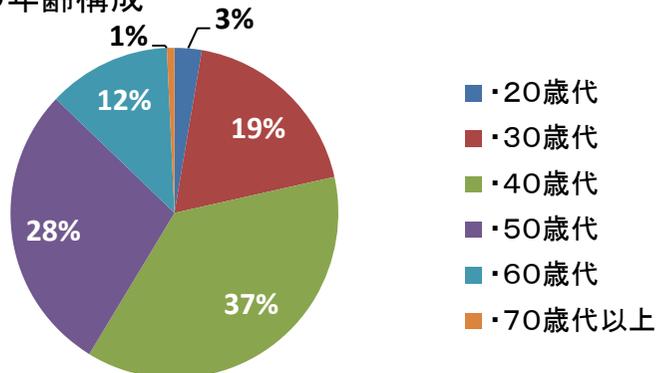
国土交通省自動車局

1. ヒアリングを行った事業者の属性

①保有台数

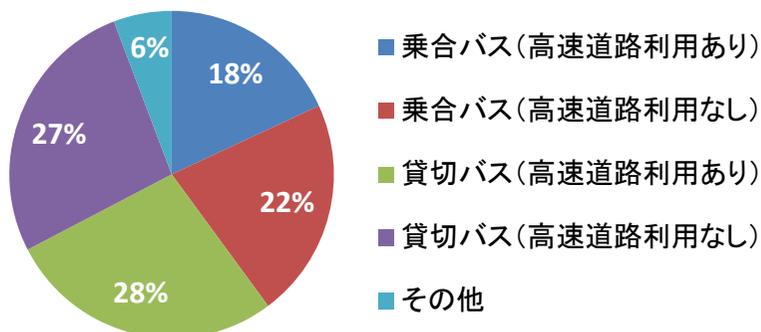


②運転者の年齢構成



③主な事業形態

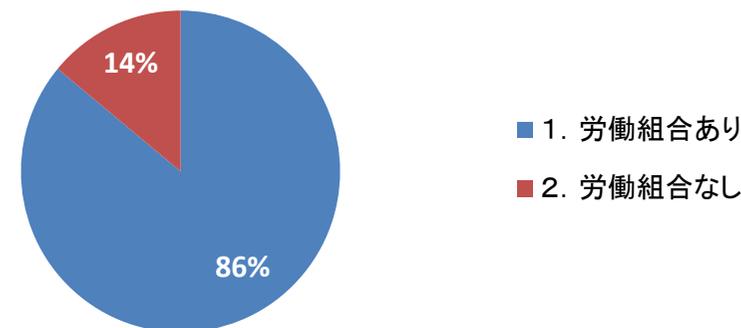
複数回答有



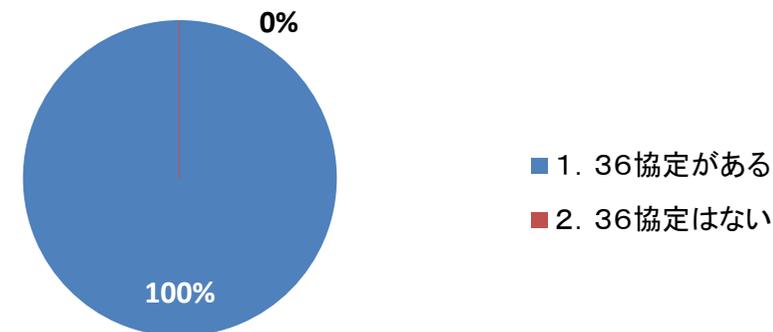
◆ヒアリング実施事業者数50事業者 回収率100%

2. 組合・36協定の有無

①労働組合の有無

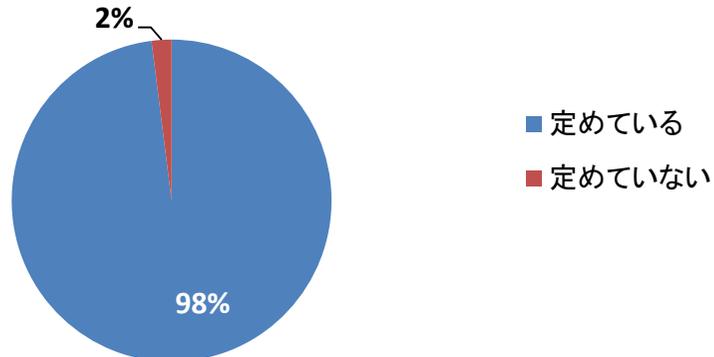


②時間外及び休日の労働に関する協定(36協定)の有無

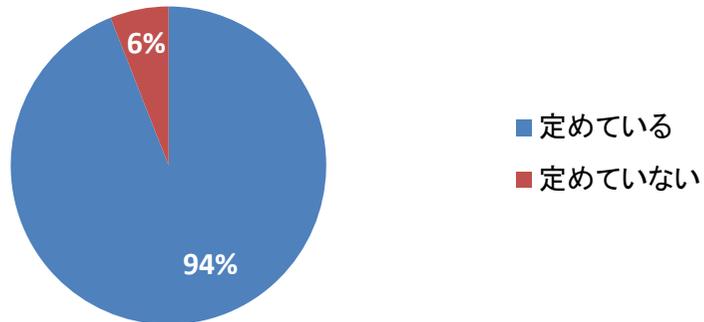


3. 時間外・休日労働に関する取り決めの有無の実態

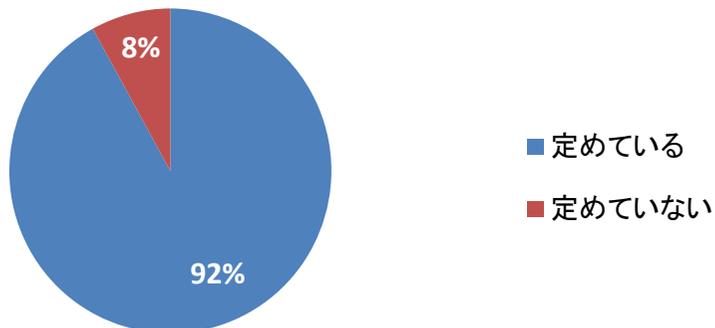
① 所定労働時間を定めているか



② 所定休日を定めているか

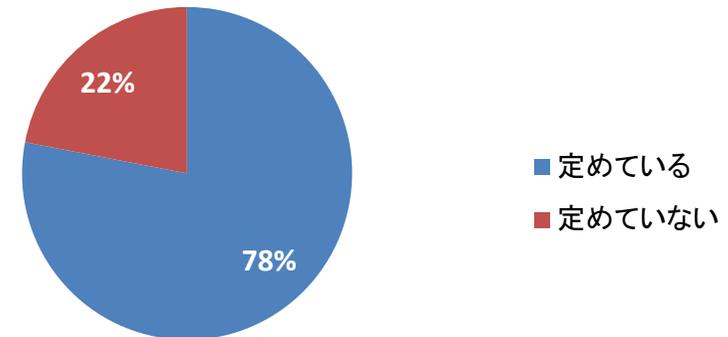


③ 労働させることができる休日を定めているか

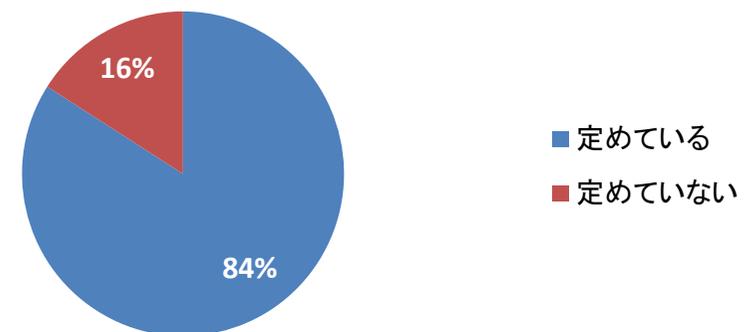


4. 始業・終業、休憩時間に関する内容

① 始業及び終業の時刻を定めているか

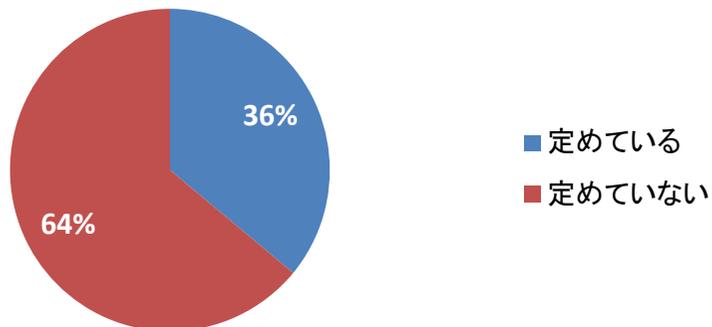


② 休憩時間を定めているか

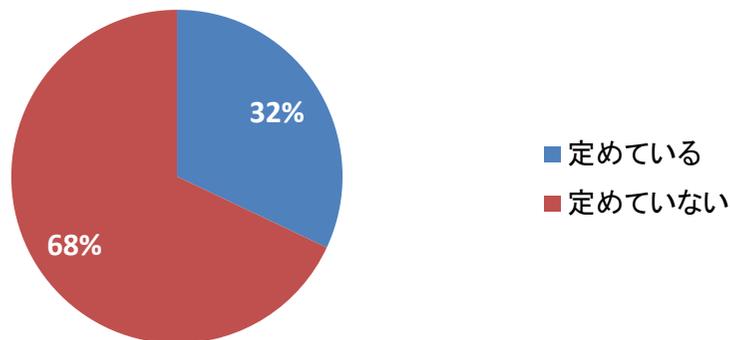


5. その他労働時間に関する取り決め等の有無の実態

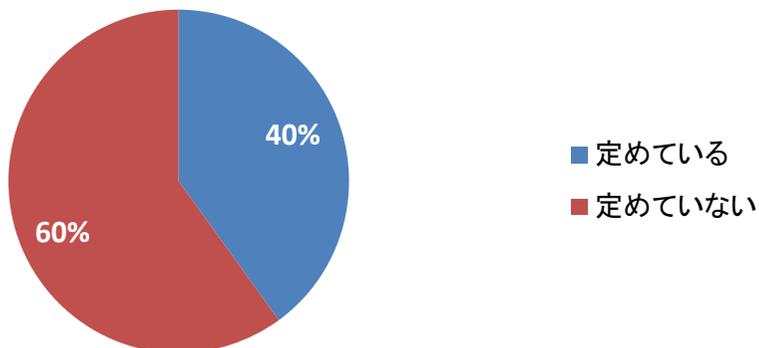
① 1ヶ月の勤務日数を定めているか



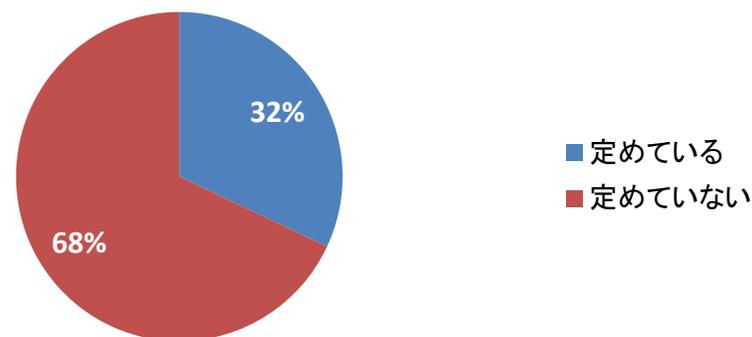
② 1日の休息時間を定めているか



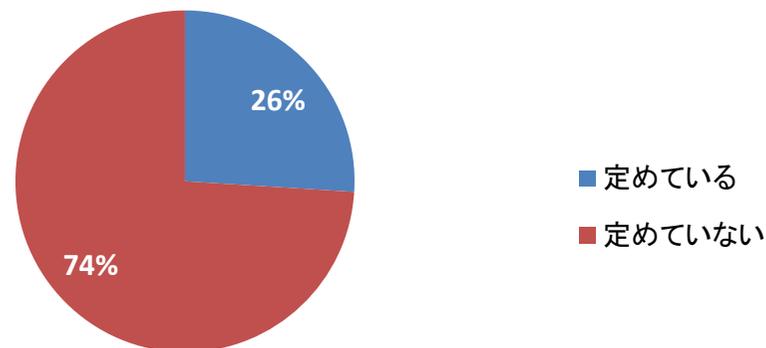
③ 1日の運転時間を定めているか



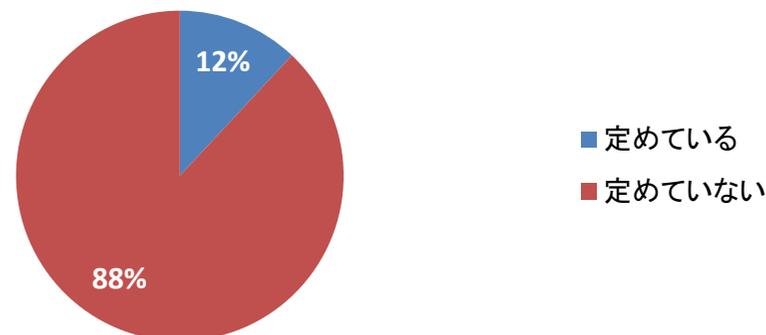
④ 連続運転時間を定めているか



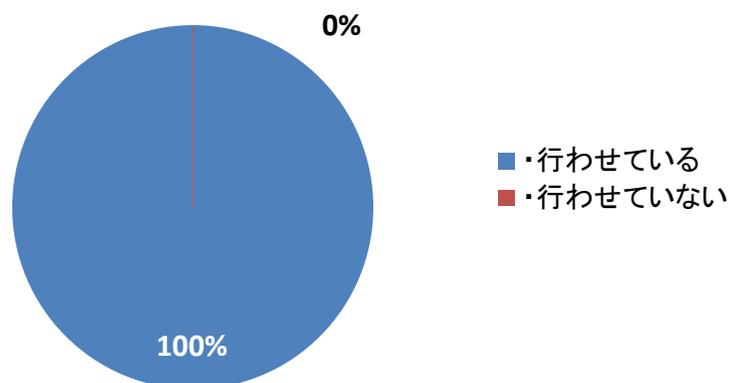
⑤ 連続勤務の回数等を定めているか



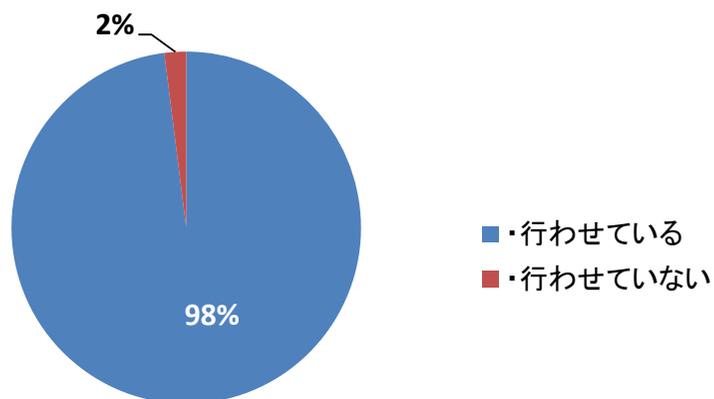
⑥ 昼夜混在勤務の回数等を定めているか



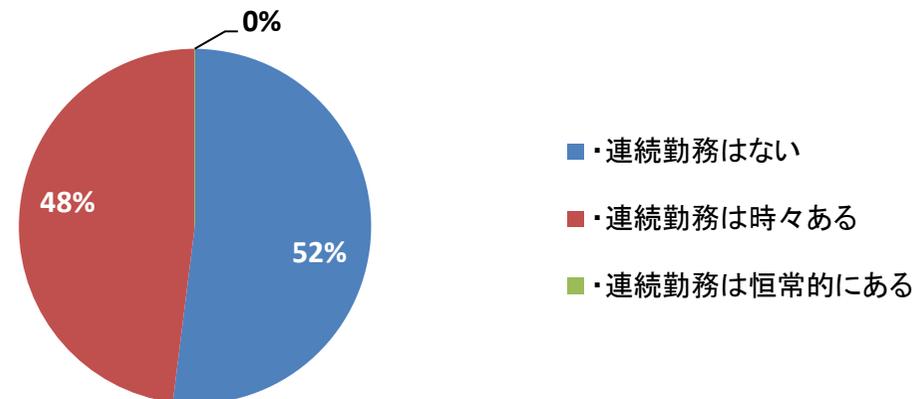
⑦乗務開始前に点検等の作業を行わせているか



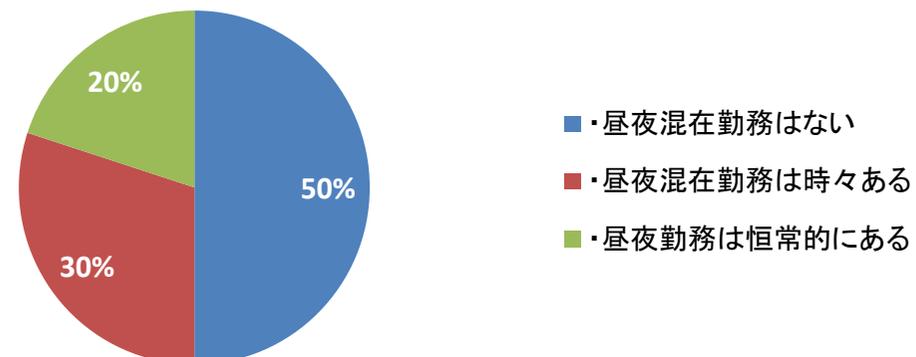
⑧乗務終了後に点検・清掃等の作業を行わせているか



⑨13日の連続勤務があるか

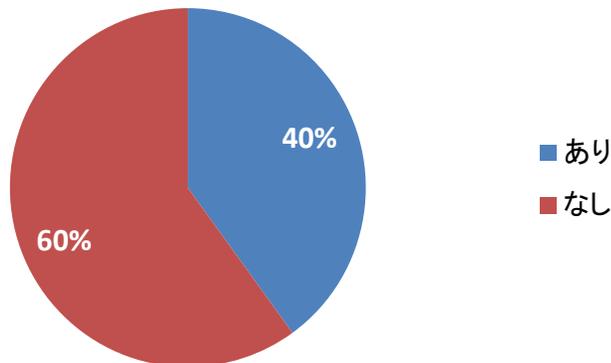


⑩昼夜混在勤務があるか



6. 運転者の特性や状況に応じた勤務体系の設定

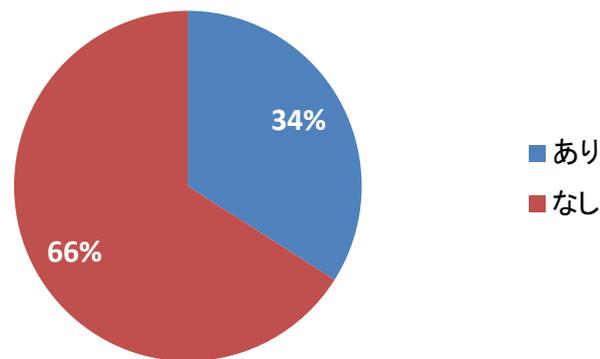
① 高齢運転者に対する特例又は運用上の配慮の有無



○高齢運転者に対する特例・配慮の具体的な内容としては、

- ・65歳以上の運転者に対する年2回の検診と脳ドックの受診義務づけ
- ・65歳以上の運転者に対するに毎年の適性診断の実施
- ・拘束時間が出来る限り短くなるよう配車時に調整
- ・60歳以上の運転者が負担の少ない路線を運行するよう配慮
- ・乗務する車両や運行する路線を限定するなどの配慮
- ・連続勤務とならないよう配慮
- ・大型バスでの運行に従事させず、小型バスでの短時間・短距離の運行に従事するよう調整等があげられた。

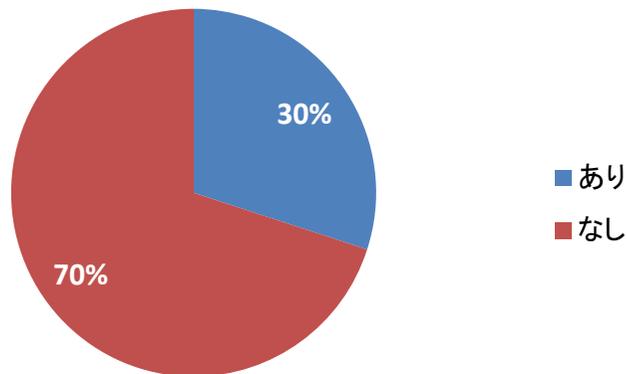
② 初任運転者に対する特例又は運用上の配慮の有無



○初任運転者に対する特例・配慮の具体的な内容としては、

- ・選任から2か月間は研修期間（座学・実車を利用した添乗指導を実施）とし、選任6か月後、選任12か月後にも指導・研修を実施
- ・入社時の薬物検査（麻薬など）
- ・乗務経験等によるグループ分け、担当路線を徐々に増やすなどの配慮
- ・本人の適応状況に応じた時間外・休日出勤の管理
- ・採用時に聞き取った本人の希望（乗合・貸切・特定バスの別）を考慮した配車等があげられた。

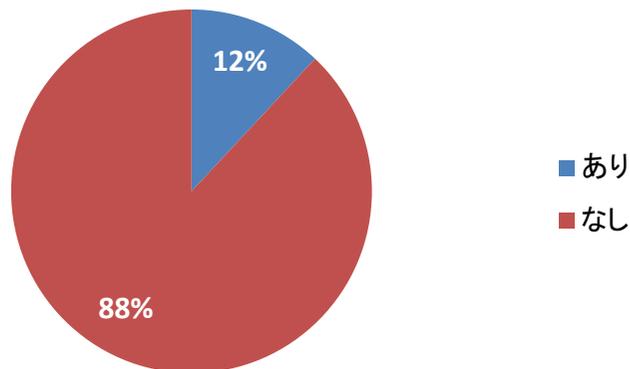
③持病を抱えている運転者に対する特例又は運用上の配慮の有無



○持病を抱えている運転者に対する特例・配慮の具体的な内容としては、

- ・主治医・保健師等と産業医の連携に基づく、必要に応じた就業上の配慮
- ・乗務前の血圧・体温の測定及び点呼時の確認
- ・通院状況についての点呼時の確認
- ・定期的な通院がある乗務員について、事前の面談による勤務調整
- ・特にSAS、糖尿病等について、健康診断結果・産業医の意見を元に管理
- ・常用薬について、処方箋から眠気を催さないかなどの確認を実施等があげられた。

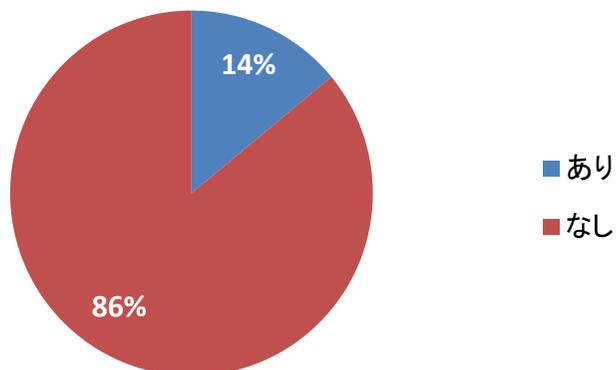
④昼夜混在勤務を行う運転者に対する特例又は運用上の配慮の有無



○昼夜混在勤務を行う運転者に対する特例・配慮の具体的な内容としては、

- ・夜間運行の次の勤務は短時間労働となるよう工夫
- ・夜間運行をツーマン乗務とし、運行前後の勤務時間に配慮
- ・育児・介護を行う運転者を深夜運行の対象から除外
- ・労使協定に基づき一定条件に該当する勤務の翌日に必ず休日を付与
- ・夜間運行の上限回数を週2回に設定等があげられた。

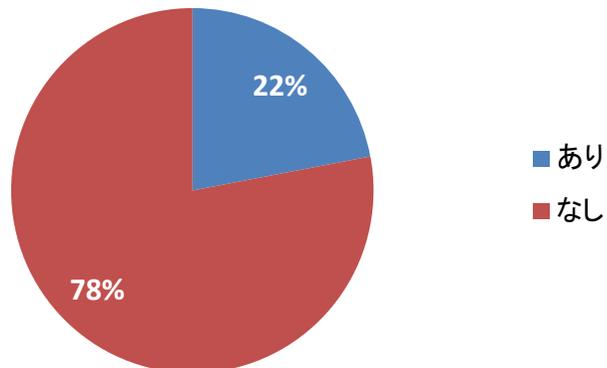
⑤高速バス運転者に対する特例又は運用上の配慮の有無



○高速バス運転者に対する特例・配慮の具体的な内容としては、

- ・長距離路線が特定の者に偏らないよう均等化
- ・連続運転時間が一定時間を超える場合はツーマン運行とする等の工夫
- ・1週間に一度、任意の車両のドラレコ映像を抽出し、追い越しの仕方などに注意点がないか確認の上乗務員教育を実施
- ・休憩時間に配慮し、無理のない運行計画について顧客に事前に説明
- ・長距離運行の翌日の運行を負担の少ない運行とするよう工夫
- ・50歳以上の者について、本人の申し出があれば高速バス運転に配属しない
- ・定期健康診断結果における要精密検査判定者について、産業医の所見を元に営業所長が許可しなければ高速バス運転に配属しない等があげられた。

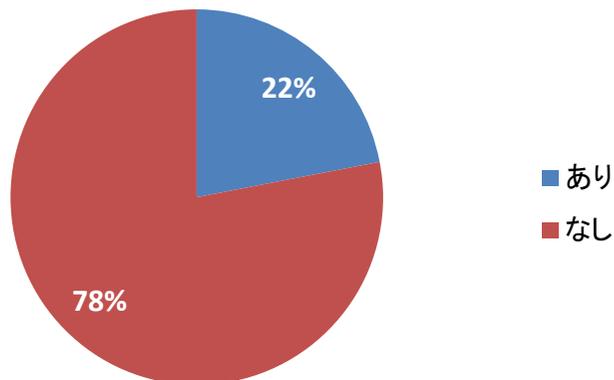
⑥夜勤後の休息時間に関する特例又は運用上の配慮の有無



○夜勤後の休息時間に関する特例・配慮の具体的な内容としては、

- ・夜勤後に20時間以上の休息期間を付与
- ・夜行朝帰り日は乗務させないこととする
- ・夜出発する運行を行う場合、昼間には乗務させないこととする等があげられた。

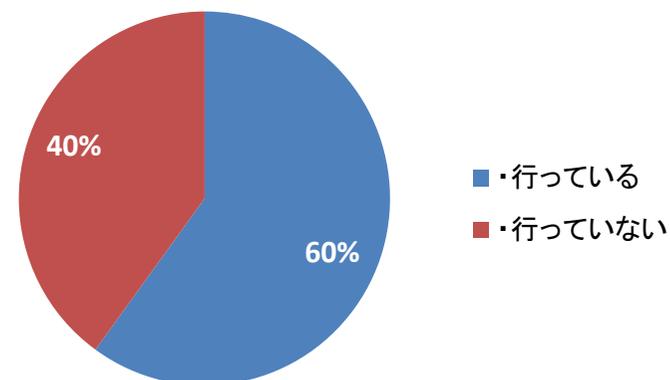
⑦連続勤務者に対する特例又は運用上の配慮の有無



○連続勤務者に対する特例・配慮の具体的な内容としては、

- ・公休日に勤務を命じた場合は1週間以内に振替休日を付与
- ・比較的緩い勤務を挟むよう配慮
- ・連続休暇を付与
- ・1日あたりの拘束時間が短くなるよう配慮
- ・運行時間の長短を混ぜ、過労にならないよう配慮等があげられた。

⑧一定以上の時間外・休日労働を行った場合の疲労度をチェックする体制があるか

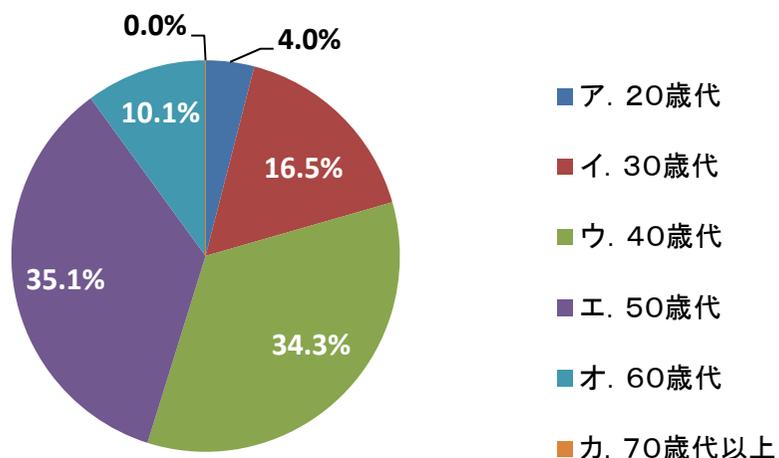


○時間外・休日労働を行った場合の疲労度のチェックの具体的な内容としては、

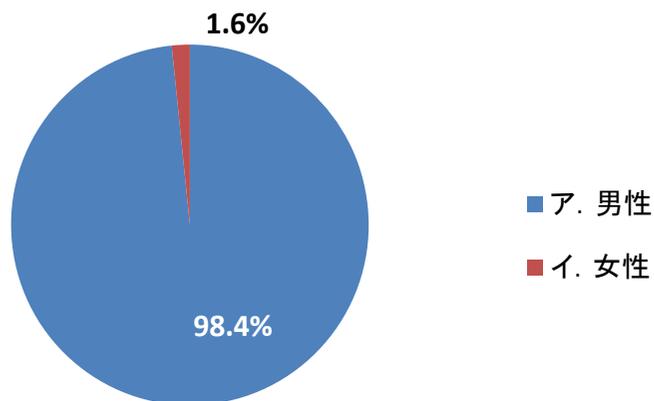
- ・超過勤務時間数に応じた産業医による面接指導の実施
- ・1日単位で運転者の労務状況を把握し、時間外労働が偏らないよう配慮
- ・夜行運行の場合、運行途中の体調チェックを実施
- ・月45時間以上の時間外労働を行っている者につき、持病がある場合又は希望する場合、産業医による面談を実施
- ・体調確認を行えるよう、点呼場に血圧計・体温計を常備
- ・勤務時間が1ヶ月で100時間、または3ヶ月平均で80時間を超えた場合、産業医の面接を実施
- ・健康診断結果に基づき、産業医のアドバイス・指導を受ける
- ・乗務しない日に現業管理者と運転者が直接話す機会を設け、体調面・精神面・疲労度をチェック等があげられた。

1. アンケートを取った運転者の属性

①年齢

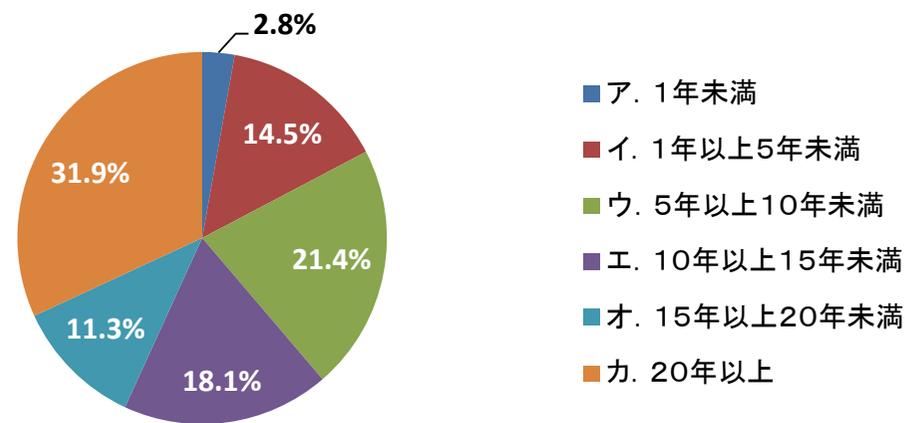


②性別

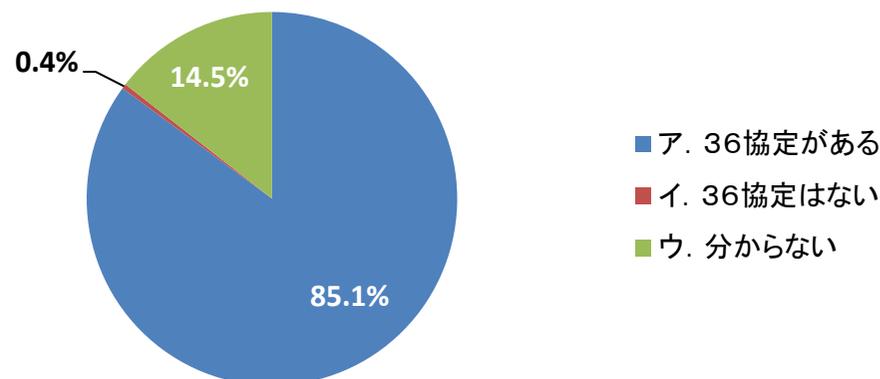


◆アンケート配付枚数250枚 回収枚数248枚 回収率99.2%

③バス運転者としての通算勤務年数

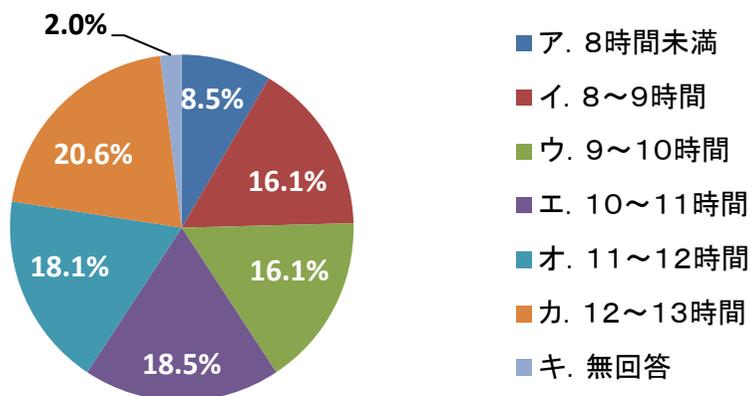


⑤所属営業所における時間外及び休日労働に関する協定の有無

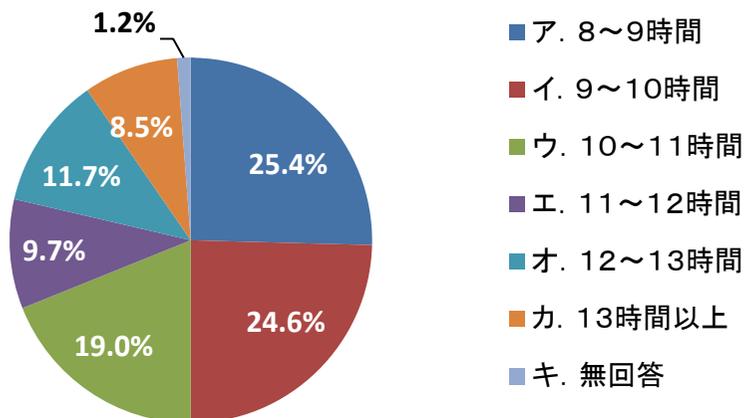


2. 労働時間の実態

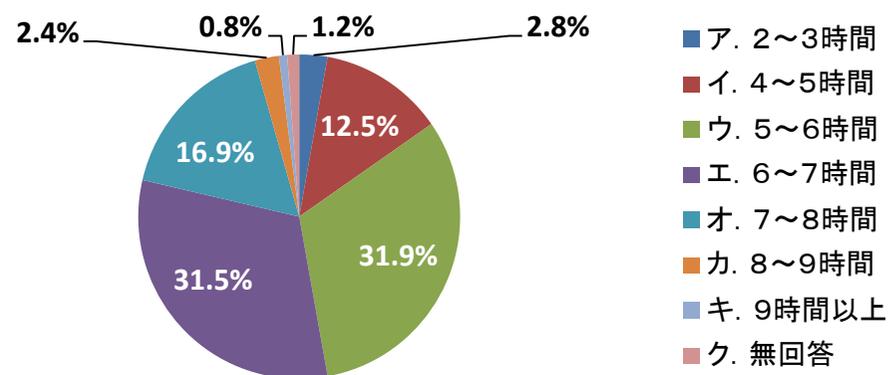
①1日の平均的な拘束時間(ワンマン乗務)



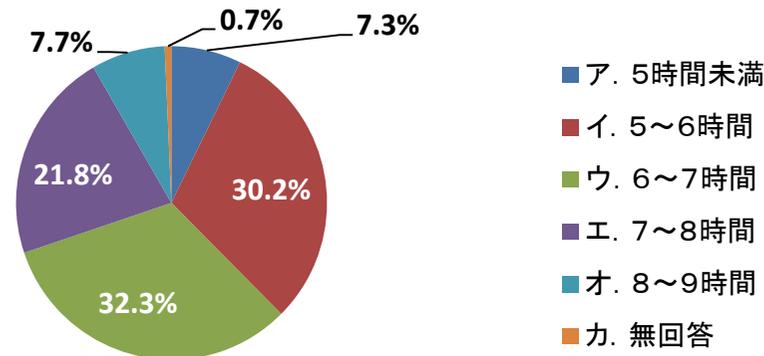
②1日の平均的な休息期間



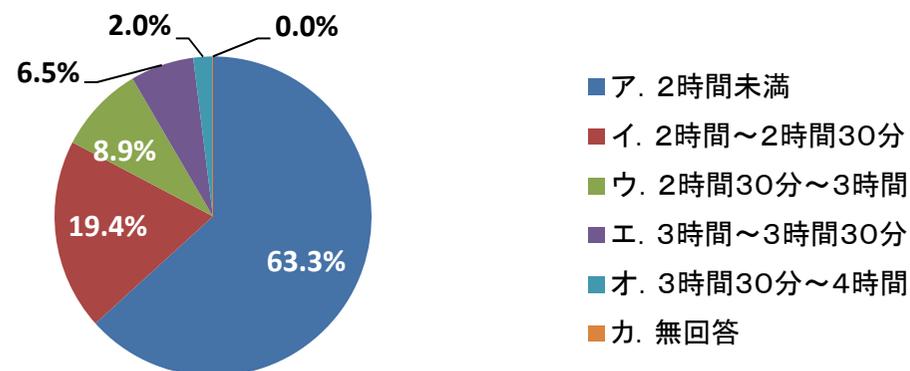
③休息期間のうち平均的な睡眠時間



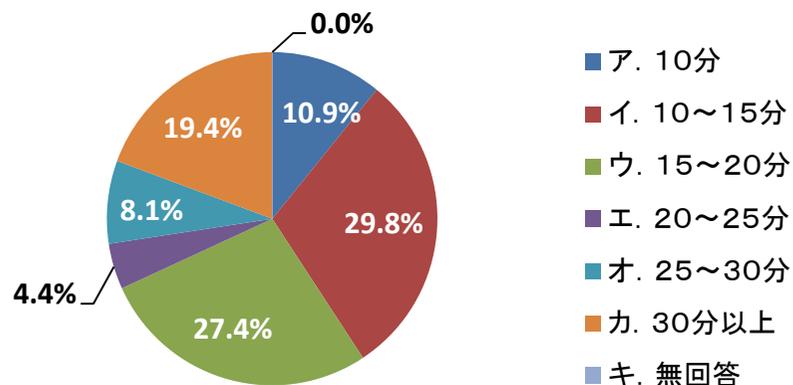
④1日の平均的な実運転時間(休憩時間を除く)



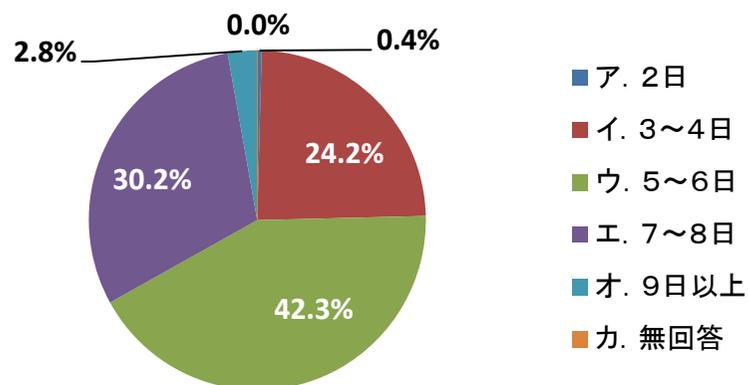
⑤平均的な連続運転時間



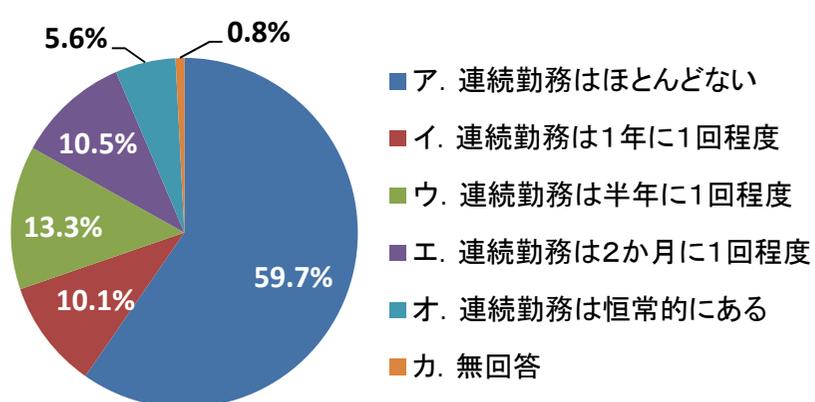
⑦連続運転時間の中の平均的な休憩時間



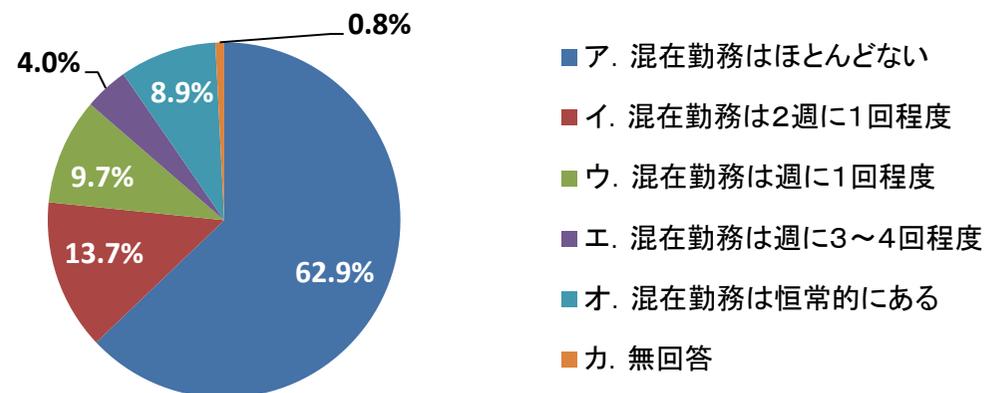
⑧直近1ヶ月の休日の日数



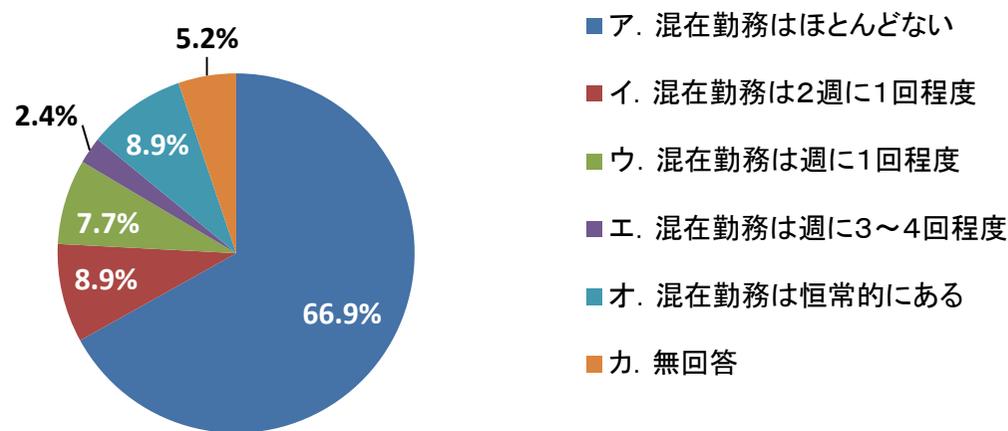
⑨13日の連続勤務の状況



⑩昼夜混在勤務の状況

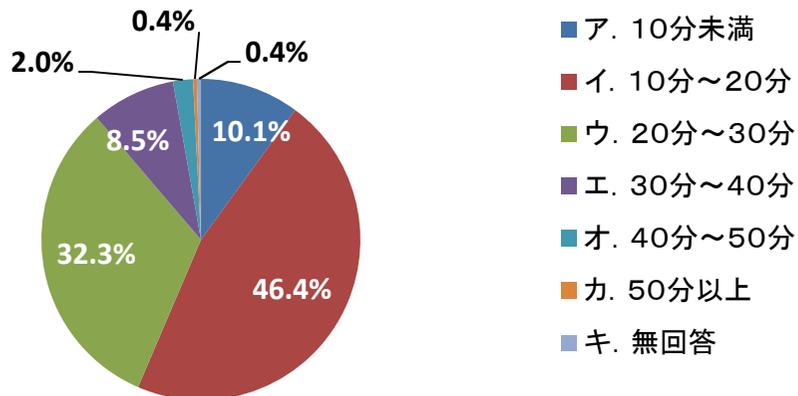


⑪他モード混在勤務の状況（高速乗合・路線乗合・貸切バスの混在）

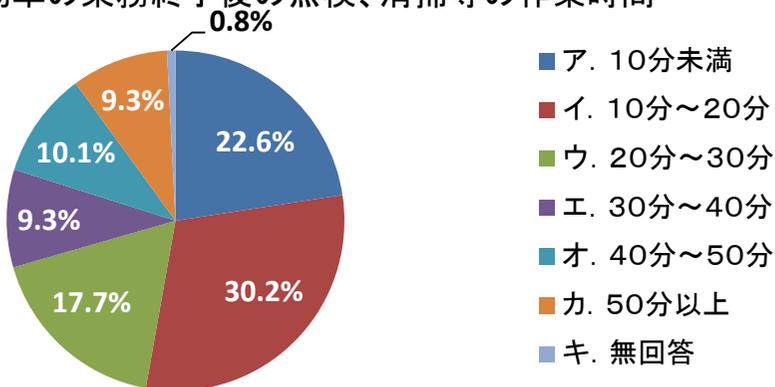


3. 勤務状況等の実態

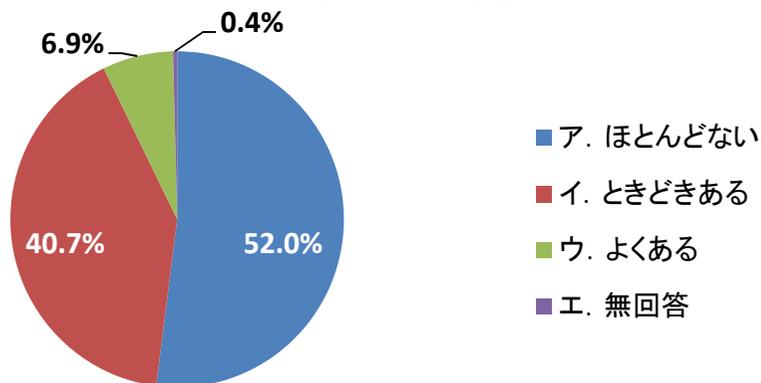
① 自動車の乗務開始前の点検、清掃等の作業時間



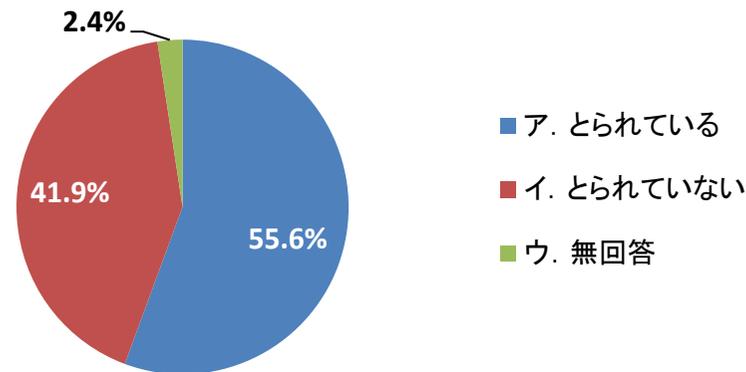
② 自動車の乗務終了後の点検、清掃等の作業時間



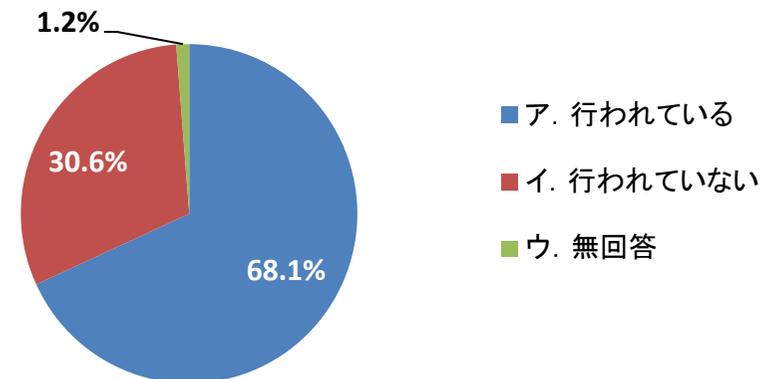
③ 連続運転の間の休憩中に旅客対応等をすることがあるか



④ 一定以上の時間外・休日労働を行った場合に事業者が疲労度をチェックする等の体制はとられているか



⑤ 連続勤務が続いている場合に長時間運行から短時間の運行に配置換えする等の調整がおこなわれているか



⑥ 車両運行中の体調不良時等に、事業者に応し出を行える環境にあるか

